

各演者による問題提起の 整理

1. 「学習内容」の問題点

自然科学教育と
しての問題点

(人文社会学を含む)
環境学教育としての問題

2. 「情報源」の問題点

教科書・副読本
の問題

教科書外情報の問題

1. 「学習内容」の問題点

1-1. 「陸水」を題材とした「自然科学教育」 の問題点

- 野崎 「発達段階の呪縛」
- 高島 「水質指標の論理的脆弱さ」
- 石川 「専門家と教育者のギャップ」

陸水学への「科学的」アプローチの入り口をどうつけるか？

現場観察と教室での実験のバランス？

1. 「学習内容」の問題点

1-1. 「陸水」を題材とした「環境教育」 の問題点

- 西廣 「水環境問題＝水質浄化」の弊害

※複数軸であるべき環境問題を単一軸で捉えることの
非現実性

複数軸による指標（ex.水環境健全度指標）が一つの回答
だが、小中学校の教科書には未掲載。

2. 「情報源」の問題点

2-2. 教科書・副読本の問題

● 山室「教科書・副読本に間違いを掲載」

※前時代的内容

環境保全活動の例「魚の放流」

大学生の認識「川の水をきれいにするにはヘドロ除去、
農薬を流さない」

→専門家集団による教科書チェック体制

※教科書出版までの時間（4～5年）によるタイムラグ

→教科書に載せられないリアルタイム情報・評価未定事例
をどう提供するか

2. 「情報源」の問題点

2.2 教科書外情報の問題

- 長野「県がお墨付きを与えたニセ科学」

EM菌、小学校総合学習での水質指標生物など、教科書にはないことを教員裁量で取り上げるケースは今後も増えると思われる。

学会としてのチェック体制をつくるほか、相談窓口を設けることも必要では？